

# 図書館だより



## 6月 3号

令和6年6月24日(月)  
第一日暮里小学校  
校長 猪瀬 賢一  
学校図書館プロジェクト



どくしよじゆんかん 読書旬間です~図書集会 ブックデリバリー おやこ どくしよ 親子で読書~

6月10日から3週間は、一日小読書旬間になります。学校では「ブックデリバリー」、家庭では「親子で読書」の取り組みをします。自分で選ぶ読書ではなかなか出合えない本と出合えるチャンスでもある取り組みです。各学年、毎月読書を頑張っている人の名前をブックランドに掲示しています。今年度もたくさん本を読みましょう!

★メディアランドでは、図書委員会児童による読書旬間に合わせたイベント「おたから読書ボーリング」が始まっています。手作りボーリングのたおれたピンの数と同じ分類の本を借りると、シールを1枚もらえます。10枚集めると、しおり、プラス1冊券、禁退出貸し出し券のどれかがもらえます。ぜひ、積極的に参加しましょう。

★「ブックデリバリー」では、各教室に担任の先生ではない先生がみなさんの教室に、「読み聞かせ」をお届けします。聞き終わったあとに「その本もっと読みたい!」と思える新たな本に出合えるといいですね。



★「親子で読書」とは、おうちの人と読書の時間を1日20分程度、3日間一緒に楽しむというものです。「読書を楽しむまち・あらかわ」では、「うち読」にも力を入れています。



- ① おうちの人と一緒に同じ本を読む
- ② おうちの人と同じ時間に、それぞれ違う本を読む
- ③ 大人が子供に読み聞かせをする
- ④ 子供が大人に読み聞かせをする



※取り組んだら、カードに感想を書いて、担任の先生に出してください。

## かだいとしよ しょうかい 課題図書を紹介します



### かだいとしよ 課題図書って なに？

どくしよかんそうぶん  
読書感想文コンクールの主催者が指定した本です。  
ほん せんもんか せんせいがた あたら しゅっぱん ほん なか えら  
本の専門家の先生方が、新しく出版された本の中から選びました。  
ねんれい あ おお かんどう あら ちしき え ほん  
年齢に合わせて、多くの感動や新たな知識を得られたりする本を、  
フィクション、ノンフィクション、がいこくさくひん へら  
外国作品などから選んだものです。



### ていがくねん 1、2年生 ねんせい



#### \*『アザラシのアニュー』 あずみ虫/作 童心社



うまれたばかりの タテゴトアザラシのアニューは おかあさんと いつもいっしょです。  
おちちを たくさんのみ、およぎかたを おしえてもらって 2しゅうかんがたちました。お  
かあさんは ほっきよくに たびだってしまい、アニューは ひとりで いきていかなくは  
なりません。ほっきよくをめざす アニューを おうえんしながら よんでみましょう。

#### \*『ごめんね でてこい』 ささきみお/作・絵 文研出版

はなちゃんのおばあちゃんが すこしのあいだ いっしょに すむことになりました。だいすき  
な おばあちゃんと いっしょにすごすのは とてもたのしかったのに、ともだちのゆうちゃん  
のことで けんかしてしまいます。なかなかおりできないまま、おばあちゃんは じぶんのいえへ  
かえっていきました。しばらくして おばあちゃんのぐあいが わるくなってしまい…。  
はなちゃんは すなおにあやまれるのでしょうか。



#### \*『おちびさんじゃないよ』 マヤ・マヤズ/文 ハウ・ユン/絵 まえざわあきえ/訳 イマジネーション・プラス



かぞくのなかでも クラスのなかでも いちばん からだがちいさい わたしの  
なまえは テン。みんなは わたしを おちびさんあつかいするけれど、なんでも  
できるんです！ あるひ ちいさなてんこうせいが きました。なまえは マルクン。  
いじめっかが マルクンを ねらっているみたい。なんとか してあげたいけど、  
どうしよう…。

#### \*『どうやってできるの チョコレート しぜんにタッチ!』 ひさかたチャイルド

チョコレートを食べたことがありますか？ では、そのチョコレートは なにから つくられて  
いるのでしょうか？ みなさんが すんでいる にほんから とおいみなみのあつくいで  
とれた カカオのみから つくられています。じかんをかけて にほんにはこばれ、ていねい  
につくられて おみせにならびます。チョコレートデザートの つくりかたも のっていま  
す。なつやすみに つくってみませんか？





＊『いつかの約束 1945』 山本悦子/作 平澤朋子/絵 岩崎書店



みくと ゆきなは 図書館に行く途中、うずくまり泣いているおばあさんに出会います。どう見てもおばあさんなのに自分のことを9才で、気づいたらこんな姿になっていたと言うのです。ずっと名乗るおばあさん(9才)から情報を集めようといういろいろな質問をしますが、すずの答えはちぐはぐです。ゆきは、きっとだれかと入れ替わったはずだから入れ替わった少女をさがそうと言い出して、3人で町中をさがします。さがしながら分かってきたことは…。

＊『じゅげむの夏』 最上一平/作 マメイケダ/絵 佼成出版社

山あいの天神集落の小学4年生は小さいころから一緒の仲良しの4人だけ。筋ジストロフィーのかっちゃん、何をすることも時間がかかるけど、それはかっちゃんのふつうだから他の3人は何も言いません。「最高の夏休みにしよう」というかっちゃんの提案で、伝説の熊吉つあんの偵察や天神橋からの飛び込み、おばけチノキの探検など、仲良し4人組がひと夏の冒険をくりひろげます。



＊『さようなら プラスチック・ストロー』 デイ・ロミト/文 ズエ・フェン/絵 千葉茂樹/訳

光村教育図書



みなさんの給食の牛乳にストローが付かなくなりましたね。とても便利なストローですが、今問題になっているのを知っていますか？使い捨てのプラスチック製品は、土の中で自然にくさったり、水に溶けたりしないので、たった一度だけ使われ捨てられたものが、とても長い時間地球上に残り続けます。こうしてプラスチックはゴミとなって海を汚し、生きものをおびやかしているのです。プラスチック・ストローから、みんなで地球の未来を考えてみましょう。

＊『聞いて 聞いて! 音と耳のはなし』 高津修・遠藤義人/文 長崎訓子/絵 福音館書店

話す声も動物の鳴き声も、楽器の音や花火だって、耳にとどいた音はふるえる空気のなみです。空気のふるえをキャッチした耳は、耳の穴の中にあるさまざまな器官を働かせて脳に電気信号を作り出し、音として聞こえるのです。音の聞こえ方について丁寧に説明している知識絵本です。なぜ耳は二つあるのかな?もっと深く考えてみたくなるかもしれません。





\*『ぼくはうそをついた』 西村すぐり/作 中島花野/絵 ポプラ社



ひろしま す しょうがく ねんせい そふ げんぱく な そふ あに はなし き  
広島に住む小学5年生のリョウタは祖父から原爆で亡くなった祖父の兄の話聞き、  
あらた ひろしま まち ある とうじしょうねん そふ おも かんが はじ  
改めて広島を歩き当時少年だった祖父たちの想いについて考え始めます。また、  
リョウタが あこが じよし ぶ げんぱく むすこ な そうそぼ  
憧れる女子バレー部キャプテンのレイは原爆で息子を亡くしている曾祖母  
の心を救いたいと思っていました。終戦からかなり経った今でも原爆の傷は癒えず、

くる つつ  
苦しみは続いているのだということがわかります。戦争を知らない私たち世代が平和のためにできることは  
なに かんが ほん  
何か、考えるきっかけになる本です。

\*『ドアのおここの国へのパスポート』

トク・ドラフト&リンデル・クロムハルト/作 リンデ・ファース/絵 西村由美/訳 岩波書店

とも はな ふとくい  
友だちと話すのが不得意なラウレンゾーは新しい学校に通い始めましたが、個性的な  
クラスメイトとの生活になじめません。でも担任のトム先生の読み聞かせはクラスのみ  
なが楽しみにしていて、ラウレンゾーはお話を書いたアケノミョージョ氏の家に招待して  
もらえることになりました。そこで見つけた鍵のかかったドアが気になるラウレンゾーにア  
ケノミョージョ氏は、ドアのおここのにはコスモポリタン連邦という国々があり、そこに入るにはパスポートとビザ  
が必要だと言うのです。クラスのみなどとコスモポリタン連邦に行こうとするのですが…。



\*『図書館がくれた宝物』 ケイト・アルバス/作 櫛田理絵/訳 徳間書店



だいにじせかいたいせんじ みうち ひとり にんきょうだい かく  
第二次世界大戦時のイギリスで、身内が一人もいなくなってしまった3人兄妹が、学  
童疎開先で後見人を探すこととなります。でも最初の受け入れ先では意地悪な双子と  
のめごとが絶えず追い出され、次に子だくさんの受け入れ先では労働力として当てに

されて衝突し、住む家を失うことに。それでも一緒にいることをあきらめなかった3人の心の支えは図書館  
と司書の女性でした。でもその女性はある理由で村人たちから疎外されていて…。物語の中に出てくる本  
は学校図書館にあるものも多いので、合わせて読んでみてはいかがでしょうか。



\*『海よ光れ!』 田沢五月/文 国土社

おおさわしょうがっこう う つ ふた うみ ひか ぎぎょう さか おおさわ ひとひと か こ つ  
大沢小学校には、受け継がれている二つの「海よ光れ」があります。漁業が盛んな大沢の人々が過去の津  
波災害に負けず力を合わせて生き抜いてきた様子を全校児童が演じる全校表現劇。そして全国コンク  
ールで毎年上位入選を果たしている学校新聞です。伝統を大切に地域に愛された大沢小学校は、東日本  
大震災の直後から避難所になりました。そこで寝泊まりする子供たちは働く大人たちの姿を見て、自分  
たちにできることは何か考え行動し始めます。子供たちの視点から書かれたノンフィクションです。